

キウイフルーツ栽培方法

植えつけ11月～2月

1 整枝・せん定

夏の日よけをかねた棚仕立てか、垣根仕立てにします。苗木から育てる場合、枝が巻きつかないように、棚の上に届くまではまっすぐに誘引してやります。なお、雄木は花粉を与えるだけなので、樹形やせん定にこだわる必要はありません。花が終わったら、込み合う枝や弱った枝を間引く程度です。

3 適果

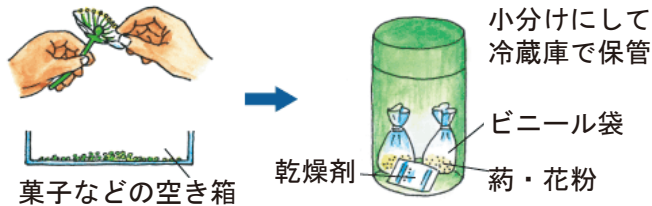
結実が多い場合は、摘果が必要です。葉の大きさにもよりますが、1果に葉4、5枚は必要です。摘果する果実は実が小さく、丸みのあるものを目安とします。また、キウイは開花後の生育が早く、3週間以内に形がはっきりしますから、遅れないように摘果しましょう。

5 適蓄



7 花粉の集め方

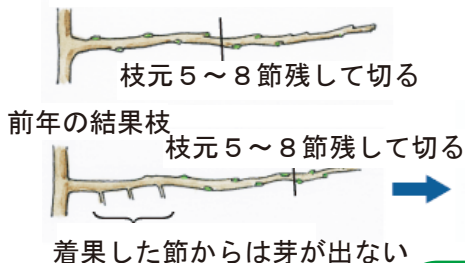
開花前日の、やや開きかけのツボミを取り、葯（花粉の袋）を集め、広げて1日室内に置くと花粉が出る



9 結果母枝のせん定

衰弱した枝や弱すぎる枝を間引く。
結果母枝を3.3㎡当たり4～6本残す

前年の发育枝（花を着けなかった枝）



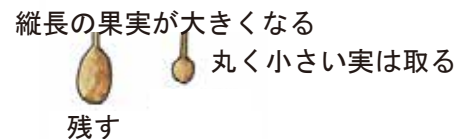
2 人工授粉

ごく少数なら、花を持って行う花授粉でもよいのですが、花粉を集めてする方が効率的です。授粉は花が咲いて2～3日以内の、花弁が白いうちにしないと、結実が悪くなります。キウイは雌しべの柱頭が広がっていて、粘液も多いので、大きめの筆を数本用意しましょう。

4 収穫と貯蔵

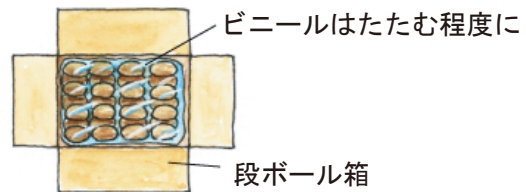
収穫時期がわかりにくく、収穫後、追熟させてから食べる果実です。収穫後、早めに食べるのなら、マイナス1℃以下の寒さが来る直前に収穫すれば、10日ぐらいで追熟します。逆に、しばらく保存しておくなら11月上旬ごろ収穫し、できるだけ涼しい所に置き、ゆっくりと追熟させます。冷蔵庫なら、さらに長く保存できます。なお、追熟の気温が高いとおいしくありません。15℃以下のところで、段ボール箱にビニールを敷いてならべ、保存します。

6 適果



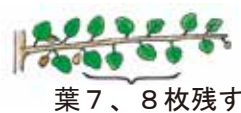
8 果実の貯蔵

箱を密封し15℃以下のところで保存



10 夏の新枝の手入れ

美しく整枝するためには長く伸びる枝は摘心する



- (1) 果実の着いた位置から葉7、8枚残して摘心
- (2) また、摘心した節からふたたび伸びきたら、小さいうちからかき取る
- (3) 果実が着いていない枝も、遅く出てる太いものは小さいうちに取る

11 雌花と雄花の見分け方

雌しべが発達



ご相談・ご要望は



ガーデックワールド

電話 079-277-5665